

# ～濃尾第二地区について～

木曾川、長良川、揖斐川の木曾三川の下流部に位置する濃尾第二地区では、古くから農業が盛んに行われてきましたが、木曾川河口部の地理的な悪条件(河床変動・潮位に合わせた取水・低湿地帯)により、不安定な取水条件での営農を強いられていました。このため、木曾川総合用水事業により、木曾川及び長良川からの85か所の農業用水取水口の合口と用水・排水を分離した海部幹線水路等の整備を行い、農業用水の取水を合理化するとともに、それによって生じた余剰水を愛知県及び三重県の都市用水に利用しています。

## ①農業用水

愛知県・三重県の木曾三川下流部のデルタ地帯の水田・畑を合わせて、約7,880haに農業用水として供給されています。長年に渡る地盤沈下や経年劣化への対策として、令和4年度から愛知県内の支線の管路及び揚水機場の改修を行っています。

## ②水道用水

三重県(四日市市を含む3市3町)に年間約1,800万㎡が、水道用水として供給されています。

## ③工業用水

愛知県(名古屋市を含む8市2町1村)・三重県(四日市市を含む4市2町)に年間約16,300万㎡が、工業用水として供給されています。

# ～濃尾第二地区を支える暮らしと産業～

## わじゅう 輪中



水屋(国営木曾三川公園HPより)

木曾三川の下流域は、全域が海拔0メートル以下で、古くは木曾川、長良川、揖斐川が網状に流れて洪水のたびに川の形を変えたといい有様でした。そのため、長年洪水と隣り合わせの生活を強いられてきました。この地域に住む人たちは、土地の一部を高く積み上げ、そこに水害が発生したときのための食料を貯蓄、また、避難したりする場所として「水屋」と呼ばれる建物を作りました。

## なばな



「江戸の灯りは伊勢の菜種でもつ」と言われていたほど、当時伊勢の国であった三重県は菜種の大産地でした。農家ではたくさん油をとるために芯を摘み取っており、その芯を食べていました。それが美味しかったことから油に代わるものとして出荷するようになり、菜種は油の採取用から食用の栽培へと変わっていきました。茎と若葉を食べるのは、長島地域が始まりといわれています。

## 石油コンビナート



石油コンビナートは、原油から取り出された成分を使って化学薬品などを製造する分業化した一つの工場のことを言います。三重県四日市市は製造品出荷額で最大規模を誇る中京工業地帯として有名です。その中でも四日市コンビナートは、古くから四日市港に立地し、現在に至るまで3つのコンビナートを形成しています。

## トマト



トマトで盛んな木曾岬町は三重県の北東端に位置し、木曾川と伊勢湾に育まれた水郷輪中の風情を残す町です。臨海工業地帯の中央に位置し企業誘致も展開されている一方で、農業では三重県下の生産高を誇るトマト栽培が盛んで、高糖度トマトである「とまりッチ」を始めとする各品種が市場において高い評価を受けています。

## びしゅう 尾州毛織



愛知県・一宮市を中心とする尾州地域は日本でも有数の毛織物生産地として発展してきました。愛知県尾張西部地域から岐阜県西濃地域で生まれた尾州生地の特徴は、糸から仕上げまでの多くの工程をこの地域の中で分業・協業によって一貫してできることにあります。

## レンコン



愛知県は全国レンコン三大産地の一つであり、濃尾第二地区で特に盛んです。レンコンは、食物繊維やビタミンCを多く含み、木曾川下流の肥沃な土壌が栽培に適しているとのこと。取材の際、ランチで愛西市にある「はすの実」を訪れました。レンコン三昧の御膳をいただきましたが、どの料理もレンコンの旨みと風味が強くて、すごく美味しかったです。



水の郷めぐり  
第3回  
木曾川用水

水資源機構が管理するダム、水路、河口堰など様々な「水の郷」を巡る企画。水とともに生きる魅力あふれる町を訪れ、そこで働く人々をご紹介します。

第3回は、木曾川総合用水事業の中でも、愛知県・三重県の暮らしを支える**濃尾第二地区**に焦点を当ててご紹介します。



# やささえる力

## 「木曾川用水」信頼の水を送ります」

木曾川用水総合管理所の職員のみならず、多くの人々に支えられている濃尾第二地区。仕事内容、仕事のやりがい、地域の魅力などについて関係各者にお話を伺いました。

### あま 海部土地改良区



海部土地改良区(愛知県弥富市)は濃尾平野の西南端部木曾川の河口デルタ地帯に位置しております。この

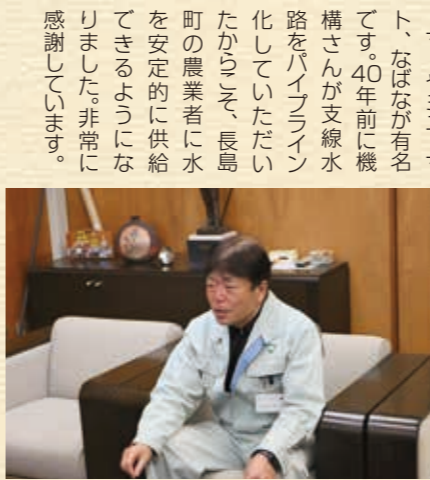
地域は宮農が盛んで、米を始め、レンコン、イチゴ等が栽培されており、産直などで新鮮な野菜が買えるのが魅力です。仕事は、配水管理と農業用施設の維持管理業務を主体として働いております。管理している水路の一つが約12kmありその中に6か所の揚水機場4か所の水位水量を調整するゲートがあります。ゲートは現地での状況に応じた数m単位の操作が必要になります。大変ですがお米を作るのに必要な水の安定供給ができる様に努めています。この仕事にやりがいを感じています。水資源機構の職員は、幅広い地域の水路管理に携わっており、水について豊富な知識や経験があるので、これからも色々勉強させていただきます。



### 長島町土地改良区



長島町土地改良区(三重県桑名市)は木曾川、長良川・揖斐川の三大河川の最下流部に位置しております。業務内容としては農業用水管(パイプライン)の管理や揚水機場施設の維持管理業務を行っています。施設整備から40年が経ち、土地改良区が管理する水路の老朽化に対する対応などは大変でした。施設の老朽化による停水を防ぐために、長寿命化事業などを行い、漏水等について未然に防止するべく日々、対応しています。今後は、施設を修理できるものは、順次、修理していくことが大事だと思っております。長島地域は輪中地域として、稲作を中心に、トマトやミニトマト、なばなが有名です。40年前に機構さんが支線水路をパイプライン化していただいたからこそ、長島町の農業者に水を安定的に供給できるようになりました。非常に感謝しています。



### 愛知県尾張水道事務所



尾張西部浄水場長 尾張西部浄水場は稲沢市及び一宮市に位置しており、愛知県の尾張西部地域に水道用水と工業用水を供給する

る施設を併せ持った浄水場です。私たちには、河川の水质にかかわらず綺麗な水を安定して送る使命があり、職員一丸となって仕事に取り組んでいます。木曾川の水は硬度が低く、おいしいと思います。また、この地域は繊維業が盛んで毛織物の産地です。繊維会社さんから工業用水の水質の良さを評価していただいたこともあり、やりがいを感じますね。この稲沢市祖父江町は銀杏の産地で、イチヨウの木が沢山あります。毎年11月下旬に「そぶえイチヨウ黄葉まつり」が開かれ、名鉄山崎駅付近はイチヨウで辺り一面が黄色に綺麗です。水資源機構さんには、今後も木曾川の水の安定供給に努めていただくようお願いいたします。



### 三重県企業庁北勢水道事務所



浄水部浄水管理課 伊藤 智彦さん 三重県北勢地域の四日市市を含む4市4町へ水道用水を、様々な企業様へ工業用水を給水しております。

私の仕事内容は、主に電気・機械設備の維持管理業務を行っています。水道・工業用水ともに大切な社会基盤となりますので、故障や事故があれば24時間365日対応しなければなりません。そこが大変さでもあり、やりがいでもあります。近年は、ゲリラ豪雨に伴う発雷も多く、雷が鳴っているときは設備が故障しないか常に不安です。北勢地域は都市部と自然の豊かな地域が近く、住みやすいところです。また、三重県屈指の工業地帯としても有名です。水資源機構さんには急な運用変更が生じた際にも、迅速に対応いただき非常に感謝しています。引き続き安定的に水を供給していただければと思います。



設備課 山村 研人

機械設備の維持管理や工事発注、施設の直営点検などを担当しています。木曾川用水は管理開始から40年近く経ちますので設備が古くなっております。突然的な不具合が起きた際の対応に苦労します。そのような突然的な不具合に対し、送水等に影響がないように速やかに対応できたときはやりがいを感じますね。これからも周りから学び姿勢を忘れず、「山村」なら機械を任せても安心だ」と思われるような信頼のある職員を目指していきたいと思っております。



弥富管理所 原 博昭

弥富管理所で特別高圧受変電設備(7000ボルトを超える高い電圧を扱う設備)のメンテナンスやポンプ設備の管理などを行っています。特高設備の故障や事故によりポンプ設備が停止すると、三重県北勢地域へ送水ができなくなってしまうので、失敗は許されぬという使命感のもと毎日仕事を行っています。配属当初は全ての設備の操作を覚えるのに一苦労しましたね。機構では数少ない特高設備を扱っているため、日々勉強させていただいております。

## 職員インタビュー



管理課 荻原 綾

工務事務や河川協議を担当しています。機構の仕事は水を通じて、地域の人々の生活を支えることができるとやりがいを感じます。また、利水者の方とも直接触れ合う機会がありますので日々新鮮です。この地域は、喫茶店がたくさんあって、名古屋特有のモーニング文化を味わえるのは地域の魅力ですね。今後、転勤を通じていろいろな地域の魅力を知り、その地域にいる人の当たり前を支えられるような職員になっていきたいです。



濃尾第二施設改築事業推進室 伊美 彰太

濃尾第二施設改築事業の用地交渉・法手続に係る仕事を行っており、今年度事業化されたので現在、調査を行っている段階です。私自身、前職の飲食業でお客様相手に仕事をしていたので、用地交渉は似ている部分もあり、少しも経験を活かせたらと思っています。用地交渉は最初の入り方を間違えると取り返しのつかない事態になるので、情報共有を行い、入念に進めるように気をつけています。私は、人とのつながりを大事にしているので、どんな仕事でもその気持ちを忘れずに取り組んでいきたいです。

## 所長インタビュー



木曾川用水総合管理所 齊藤 一俊

日本でも有数の延長と流域面積を誇る木曾川の最下流部に位置する木曾川用水濃尾第二地区は木曾川大堰を始め海部幹線水路や木曾川水管橋、それらに連なる支線水路などの水路網で構成されており、愛知県及び三重県の農業用水並びに都市用水を供給しています。名古屋という大都市圏近郊にありながら大規模に営農が展開され、稲作の他、愛知県側ではレンコンやイチゴ栽培、三重県側ではトマトやなばな栽培などが盛んで、遠くに伊吹山や鈴鹿山麓の山並みを望み、四季折々の風景に触れながら仕事を行っています。

木曾川用水総合管理所は、水資源機構の中でも比較的若い職員が多い事務所ですが、令和4年度には支線水路の改築事業が始まり、職員数も増えます。ますます活気が増してきました。ベテランと若手がうまくかみ合い、相乗効果を生み出してくれることを期待しています。これだけの水管理施設と供給システムを新たに構築することは現代の技術をもってしても難しく、改めて先人達の知恵と工夫、エネルギーに敬意の念を抱きます。地元と共に築き上げた、不自由なく水を使えるという「当たり前」の世界を引き継いでいくために、「安全で良質な水の安定した供給」を二丁目一番地として、今後も職員一丸となって施設を管理してまいります。